

明治有田 超絶の美

万国博覧会の時代

2016年7月23日(土)～9月4日(日)



開館時間：午前9時30分～午後5時

7・8月の金曜日は午後8時まで

入場は閉館30分前まで

休館日：月曜日（ただし、8月15日は臨時開館）

観覧料：一般1,000(800)円 高・高専・大生500(400)円

小・中生300(240)円（ ）内は20名以上の団体割引料金

いわき市内在住の65歳以上の方、身障者手帳・療育手帳・

精神障がい者保険福祉手帳をお持ちの方は無料

いわき市内の小・中・高・専修・高専生は、土日無料

主催：いわき市立美術館

後援：佐賀県、有田町

特別協力：世界文化社

協力：有田ポーセリンパーク、

香蘭社、佐賀県立九州陶磁文化館

展示協力：江上料理学院

企画協力：西日本新聞社

有田焼創業400年記念

いわき市立美術館

〒970-8026 いわき市平字堂根町4-4

TEL.0246-25-1111 FAX.0246-25-1115

中央：精磁会社《色絵鳳凰花唐草文透彫大香炉》1879(明治12)年～1897(明治30)年頃 個人蔵／右上：香蘭社《染付青磁蘭刻雲鶴文耳付大花瓶》(部分)1910(明治43)年～1920年代 公益財団法人鍋島報效会蔵／写真提供：世界文化社

日本の磁器は、1610年代に佐賀県有田町で作られたのが始まりとされます。有田を拠点としていたため「有田焼」と呼ばれていますが、近くの伊万里港から出荷されたことから、当初は「伊万里焼」の名が一般的でした。国内で普及した有田焼は、江戸前期には海外に輸出されるようになり、さらに明治期に入ると政府により殖産興業製品と位置づけられて万国博覧会に出品を重ね、その優雅で精緻な作風は、欧米で絶大な人気を博しました。

有田焼創業400年を記念して開かれる本展は、西洋の影響を受けて変化しつつ伝統的な日本の美の特質を昇華させた明治以降の有田焼の魅力を紹介するもので、日本最高峰の技術が施された約100件の磁器に加え、制作過程や当時の嗜好がうかがえる貴重なデザイン画も展示されます。

ウィーン万博に出品された約2メートルの大花瓶や、花鳥風月が細やかに描かれた大皿、贅沢な洋食器セットなど、豪華絢爛たる作品の数々を通じて、日本が誇る伝統工芸の世界をどうぞお楽しみください。

明治有田 超絶の美

万国博覧会の時代



1 《染付蒔絵富士山御所車文大花瓶》1873(明治6年) 有田ポーセリンパーク蔵
2 香蘭社《染付藤文洋食器》1910(明治43)年頃 公益財団法人立花家史料館蔵
3 香蘭社(辻勲蔵)《色絵菊花流水文透台付大花瓶(対)》1876(明治9)年頃 個人蔵
4 香蘭社(辻勲蔵)《色絵金彩花瓶具足紅葉桜園大皿》1877(明治10)年頃 東京国立博物館蔵

5 香蘭社(辻勲蔵)《金彩雲透彫天女陽刻文三足壺》1878(明治11)年頃 個人蔵
6 香蘭社《色絵麒麟花噴鳥文鳳凰形トレイ・コーヒースセット》1875(明治8)年~1880年代 株式会社賞美堂本店蔵
7 香蘭社《色絵有職文耳付大壺》1875(明治8)年~1880年代 個人蔵
(1-3、5-7) 写真提供: 世界文化社、(4) Image: TSN Image Archives

◆会期中の催し

(1)講演会「明治有田 超絶の美」

日時:7月23日(土) 午後2時~3時30分

講師:鈴木由紀夫(佐賀県立九州陶磁文化館館長・本展監修)

会場:セミナー室 定員:45名(当日先着順・事前申込不要) 参加費:無料

(2)有田焼絵付け体験講座「古伊万里の紅葉」

日時:8月28日(日)

午前の部/9時40分~12時40分、午後の部/1時40分~4時40分

講師:有坂多絵子(陶磁器絵付け一級技能士)

会場:実技講習室 対象:高校生以上 定員:各15名 参加費:1,500円

応募方法:7月20日(水)から電話・FAXで申込み受付。

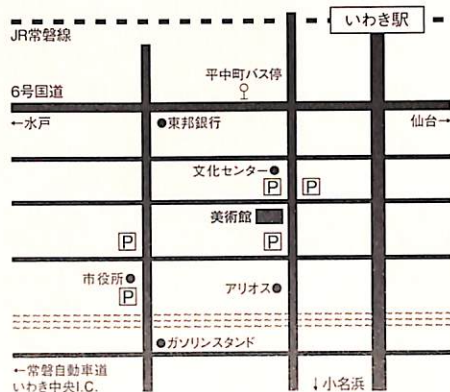
先着順で定員になり次第締め切り。

(3)館長講座「描かれた古代ローマ建国の物語」

日時:9月3日(土) 午後2時~3時30分

講師:佐々木吉晴(当館館長) 会場:セミナー室

定員:45名(当日先着順・事前申込不要) 参加費:無料



交通のご案内

- JR常磐線・磐越東線いわき駅より徒歩12分
- 常磐・磐越自動車道いわき中央I.C.より15分(近隣の公共駐車場回をご利用ください)
- 高速バス(東京-いわき線、郡山-会津若松-いわき線、福島-いわき線) 平中町バス停より徒歩3分

いわき市立美術館

〒970-8026 いわき市平字堂根町4-4
TEL.0246-25-1111 FAX.0246-25-1115